

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ほしのご池上		
○保護者評価実施期間	2024年12月1日		～ 2024年12月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	2024年12月1日		～ 2024年12月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価作成日	2025年1月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	さまざまな療育内容を実施している。	目標は変えず、療育の内容を日々変えていくことで、児童が飽きずに活動へ参加できるようプログラムを組み立てている。 多種多様な資格を持った職員が集まっているため、それぞれの知識や経験を反映することで、療育内容がバリエーション豊かになっている。 祝日は、調理活動や戸外活動などイベントを設け、学校が休みの日も前向きに通所できる環境を整えている。	職員同士がお互いの療育内容に対して感じたことをより共有し、各自のスキルアップに繋げる。
2	保護者との連携・伝達。	療育終了後に、その日の児童の様子を職員から伝えたり、学校や家庭での出来事などを保護者から聞き取りをしている。アプリを導入し、保護者からコメントやメッセージを送りやすい体制を整えている。また、個別支援計画書を作成する際は保護者と面談を行い要望や意見を反映している。	職員へ気を遣って相談を控えている方、どう手順を踏んで相談すればいいか悩んでいる方もいらっしゃるため、〈年度初め〉〈学期の節目〉など明確にタイミングを決めながら全保護者へ向けて相談対応、連携対応を行っていることを周知する。
3	姉妹教室との連携。	児童発達支援から継続して同グループの放課後等デイサービスを利用できる為、児童の成長の過程を縦断的に把握しながら支援を行える。 姉妹教室合同でのイベント(夏祭り・発表会など)を実施し、よりさまざまな年代の児童や保護者と交流できる。	児童・保護者が地域で安心して暮らせるよう、定期的に開催しているイベント以外の催しも検討・開催する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	災害時の対応に関する保護者への周知	避難ルートに関して、教室に掲示するのみに留まっている。各種マニュアルは策定しているが、周知ができていない。避難訓練は年2回以上実施しているが、行えていない曜日がある。	見学・契約時に災害への対応について説明を行う。避難訓練を全ての曜日で実施できるよう長期的な計画を立てる。
2	保護者支援の充実	保護者が就労している兼ね合いもあり、療育中の児童の様子を直接的に見る場面が少なく、“見学が出来る”との情報も契約時や保護者からの求めがあった際には伝えてはいるが、全体周知が出来ていない現状がある。療育内容や児童の様子については口頭及びHUGの記録のみの共有であるため、実際に見る機会を設けていきたい。	保護者が療育内容に興味を持ち気軽に見学できるようHUGやお便りなどのツールを使い周知していく。療育に参加できるイベントを実施し、より多くの利用者が児童との関わり方に関して学んだり共有できる場を設ける。
3	学校との連携	連携するにあたり、事業所としては午後の療育時間の兼ね合いから午前中の実施が好ましく、学校側としては下校後の午後が都合が良く、タイミングについてのずれ違いがおきている。	まずは、保護者に対しては日々のやりとりや面談・モニタリングの機会を通して、そして学校等の関係機関へは公開授業等で足を運んだ際などにやりとりを重ねることで、連携をすることの必要性を感じてもらえるよう動いていく。